

























つしん景況レポート

作州地域中小企業景気動向調査 2015. 7~9月期 第15回

【特別調査—中小企業が地域金融機関に望むこと】

津山信用金庫は、作州地域内248企業の経営者のご協力のもと、ここに第15回つしん景況レポートを発刊いたします。作州地域の景況感を経営者の皆様方と共有し、皆様方のよきパートナーとして地域の繁栄に努めてまいります。

■概況:7月~9月の業況は曇、10月~12月の見通しは晴れ時々曇■

【地域別天気図】	2014年 7月~9月	2014年 10月~12月	2015年 1月~3月	2015年 4月~6月	今期実績 7月~9月	来期見通し 10月~12月
作州地域全体						
津山鏡野地域						
真庭地域						
美作勝央地域						

●作州地域全体では、今期(2015年7月~9月)の業況判断DIは、前期比6.8ポイント下落し、プラス2.0となった。来期(2015年10月~12月)はプラス13.3と業況感が改善する見通しとなっている。

●地域別には、津山鏡野地域は前期比15.6ポイント下落しプラス0.7、真庭地域は前期比16.4ポイント改善しプラス6.0、美作勝央地域は前期と変わらずプラス2.3となった。来期は、美作勝央地域でゼロと若干景況感が悪化するが、津山鏡野地域でプラス18.9、真庭地域でプラス8.0と業況感が改善する見通しとなっている。

業況判断DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い
作州地域全体	8.8	28.6	44.8	26.6	2.0	31.0	51.2	17.7	13.3
津山鏡野地域	16.3	28.6	43.5	27.9	0.7	33.8	51.3	14.9	18.9
真庭地域	▲10.4	30.0	46.0	24.0	6.0	26.0	56.0	18.0	8.0
美作勝央地域	2.3	27.3	47.7	25.0	2.3	27.3	45.5	27.3	0.0

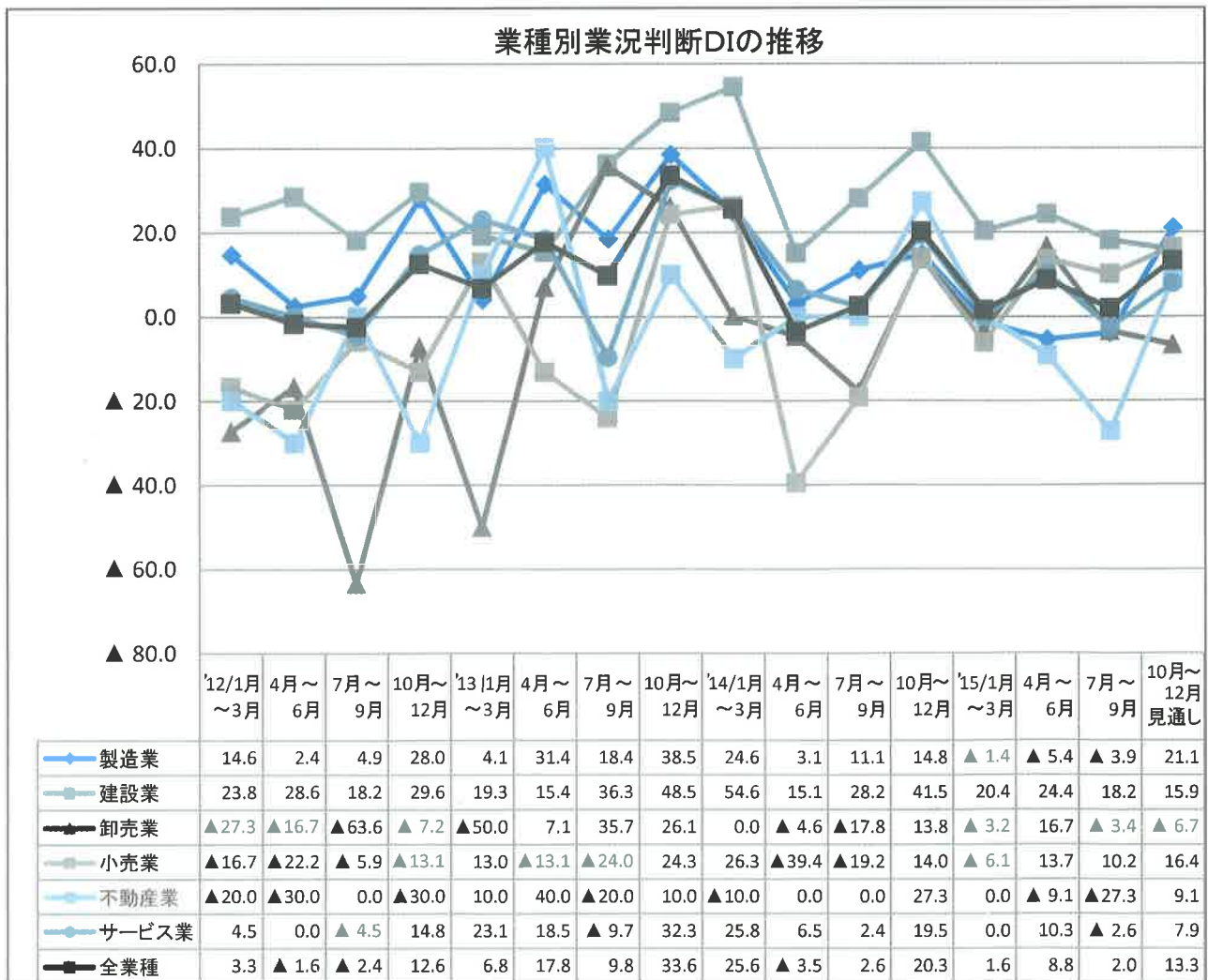
※DIとは、Diffusion Index の略で、「良い(または増加、上昇、楽)」と回答があった企業数の割合(%)から「悪い(または減少、下降、苦しい)」と回答があった企業数の割合(%)を差し引いた値

■天気図のご説明■

DI	30以上	10以上~ 30未満	0以上~ 10未満	▲10以上 ~ 0未満	▲30以上 ~ ▲10未満	▲30未満
天気図						

■ 全業種総合 ■

【業種別 天気図】	2014年 7月～9月	2014年 10月～12月	2015年 1月～3月	2015年 4月～6月	今期実績 7月～9月	来期見通し 10月～12月
製造業						
建設業						
卸売業						
小売業						
不動産業						
サービス業						
全業種						



全業種	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI
業況	8.8	28.6	44.8	26.6	2.0	31.0	51.2	17.7	13.3
売上	▲ 3.2	31.9	36.3	31.9	0.0	42.3	41.1	16.5	25.8
収益	▲ 6.4	27.8	39.1	33.1	▲ 5.3	37.9	45.2	16.9	21.0

- 業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)はプラス2.0となり、前期比6.8ポイント下降した。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス13.3となっている。
- 売上判断DIは、今期はゼロとなり、前期比3.2ポイント上昇した。来期見通しはプラス25.8となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス5.3となり、前期比1.1ポイント上昇した。来期見通しはプラス21.0となっている。

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI
資金繰り	6.0	8.5	87.1	4.4	4.1	8.5	87.5	4.0	4.5
雇用(人手過不足)	▲ 28.3	4.4	62.1	33.5	▲ 29.1	4.0	60.9	35.1	▲ 31.1
設備投資	▲ 9.2	4.6	80.6	14.8	▲ 10.2	2.1	84.0	13.9	▲ 11.8

- 資金繰り判断DIは、今期(2015年7月～9月)はプラス4.1となり、前期比1.9ポイント下降した。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス4.5となっている。
- 人手過不足判断DIは、今期はマイナス29.1となり、前期比0.8ポイント下落した。来期見通しはマイナス31.1となっている。依然として、人手不足感は強い。
- 設備投資DIは、今期はマイナス10.2となり、前期比1.0ポイント下降した。来期見通しはマイナス11.8となっている。「適正」と回答のあった企業は8割を超えている。

■ 製造業 ■

製造業全般	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI
業況	▲ 5.4	30.3	35.5	34.2	▲ 3.9	39.5	42.1	18.4	21.1
売上	▲ 5.3	28.9	30.3	40.8	▲ 11.9	52.6	31.6	15.8	36.8
収益	▲ 14.7	25.0	30.3	44.7	▲ 19.7	48.7	34.2	17.1	31.6

- 製造業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比1.5ポイント上昇したが、マイナス3.9となり、3期連続でマイナスとなった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス21.1となっている。自動車関連業者からは、受注が増加しているとの声があった。
- 売上判断DIは、今期はマイナス11.9、来期見通しはプラス36.8となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス19.7、来期見通しはプラス31.6となっている。
- 製造業の内、その他製造業(金属製品製造業、木材・木製品製造業、農林業を除いたもの)の業況判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス13.9となっている。
- 為替相場が120円台で推移していることと原油安となっていることを歓迎する声や中国経済の成長鈍化を懸念する声が複数聞かれた。

製造業のうち: 金属製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI
業況	15.4	35.7	42.9	21.4	14.3	42.9	42.9	14.3	28.6
売上	7.7	35.7	42.9	21.4	14.3	42.9	42.9	14.3	28.6
収益	▲ 15.4	28.6	28.6	42.9	▲ 14.3	50.0	28.6	21.4	28.6

- 金属製品製造業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比1.1ポイント下落し、プラス14.3となった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス28.6となっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス14.3、来期見通しはプラス28.6となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス14.3、来期見通しはプラス28.6となっている。
- 補助金等で機械を導入したが、複数の機械を同時稼働させるだけの人員がいらない、機械の生産能力の差から生産ライン上で稼働ロスが生じて生産性が向上していないとの声が聞かれた。

製造業のうち： 木材・木製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 60.0	14.3	42.9	42.9	▲ 28.6	35.7	42.9	21.4	14.3
売上	▲ 26.6	28.6	21.4	50.0	▲ 21.4	71.4	21.4	7.1	64.3
収益	▲ 33.3	21.4	21.4	57.1	▲ 35.7	64.3	28.6	7.1	57.2

- 木材・木製品製造業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比31.4ポイント大幅に上昇したが、マイナス28.6に留まった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス14.3と改善見通しとなっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス21.4、来期見通しはプラス64.3となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス35.7、来期見通しはプラス57.2となっている。
- 製材業では、住宅着工件数が回復基調にあり、プレカット工場の稼働率が上昇していることから業況が改善しつつある。

製造業のうち： 農林業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	9.1	33.3	25.0	41.7	▲ 8.4	58.3	25.0	16.7	41.6
売上	9.1	25.0	16.7	58.3	▲ 33.3	66.7	16.7	16.7	50.0
収益	▲ 18.2	25.0	16.7	58.3	▲ 33.3	50.0	33.3	16.7	33.3

- 農林業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比17.5ポイント下降し、マイナス8.4となった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス41.6となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス33.3、来期見通しはプラス50.0となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス33.3、来期見通しはプラス33.3となっている。
- 農業では、収穫期を迎えることから売上・収益ともに大幅な改善を期待している。

■ 建設業 ■

建設業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	24.4	36.4	45.5	18.2	18.2	31.8	52.3	15.9	15.9
売上	11.1	29.5	54.5	15.9	13.6	34.1	54.5	11.4	22.7
収益	▲ 2.2	25.0	50.0	25.0	0.0	20.5	63.6	15.9	4.6

- 建設業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比6.2ポイント下落し、プラス18.2となった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス15.9となっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス13.6、来期見通しはプラス22.7となっている。
- 収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス4.6となっている。
- 住宅建設を除いた建設業の業況判断DIは、今期はプラス27.0、来期見通しはプラス15.4となっている。
- 前期に続き、病院・介護施設や保育園などの民間の大口工事が受注できている。また、来期は公共工事の受注も期待できるとの声が複数聞かれた。

建設業のうち: 住宅建設	前期	今期実績			来期見通し				
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	21.0	33.3	38.9	27.8	5.5	27.8	61.1	11.1	16.7
売上	26.3	27.8	61.1	11.1	16.7	44.4	50.0	5.6	38.8
収益	10.5	16.7	61.1	22.2	▲ 5.5	33.3	55.6	11.1	22.2

●住宅建設業者の業況判断D Iは、今期(2015年7月～9月)は前期比15.5ポイント下降し、プラス5.5となった。来期(2015年10月～12月)の見通しはプラス16.7となっている。

●売上判断D Iは、今期はプラス16.7、来期見通しはプラス38.8となっている。

●収益判断D Iは、今期はマイナス5.5、来期見通しはプラス22.2となっている。

●消費税増税を意識した営業戦略によって、6月以降住宅着工件数が前年度比で増加していることから、来期は売上、収益とも改善する見通しとなっている。

■卸売業■

卸売業	前期	今期実績			来期見通し				
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	16.7	23.3	50.0	26.7	▲ 3.4	13.3	66.7	20.0	▲ 6.7
売上	▲ 10.0	36.7	26.7	36.7	0.0	36.7	36.7	26.7	10.0
収益	▲ 6.7	33.3	33.3	33.3	0.0	36.7	36.7	26.7	10.0

●卸売業の業況判断D Iは、今期(2015年7月～9月)は前期比20.1ポイント下降しマイナス3.4となった。来期(2015年10月～12月)見通しはマイナス6.7となっている。

●売上判断D Iは、今期はゼロ、来期見通しはプラス10.0となっている。

●収益判断D Iは、今期はゼロ、来期見通しはプラス10.0となっている。

●今年の夏は、暑い日が多かったため飲料の売行きが良いとの声が聞かれた。また、リフォーム需要が堅調なため建築資材卸売業の業況が改善しているとの声が聞かれた。

■小売業■

小売業	前期	今期実績			来期見通し				
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	13.7	30.6	49.0	20.4	10.2	32.7	51.0	16.3	16.4
売上	▲ 11.8	40.8	34.7	24.5	16.3	51.0	36.7	12.2	38.8
収益	0.0	32.7	46.9	20.4	12.3	51.0	42.9	6.1	44.9

●小売業の業況判断D Iは、今期(2015年7月～9月)は前期比3.5ポイント下落しプラス10.2となった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス16.4となっている。

●売上判断D Iは、今期はプラス16.3、来期見通しはプラス38.8となっている。

●収益判断D Iは、今期はプラス12.3、来期見通しはプラス44.9となっている。

●プレミアム付商品券の効果で売上増加となったので、年末商戦も期待するとの声があった。

小売業のうち: 自動車小売業	前期	今期実績			来期見通し				
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少
業況	▲ 28.6	14.3	50.0	35.7	▲ 21.4	21.4	57.1	21.4	0.0
売上	▲ 42.8	21.4	50.0	28.6	▲ 7.2	28.6	64.3	7.1	21.5
収益	▲ 28.6	21.4	57.1	21.4	0.0	35.7	64.3	0.0	35.7

●自動車小売業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比7.2ポイント上昇したが依然として水面下でマイナス21.4となった。来期(2015年10月～12月)見通しはゼロとなっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス7.2、来期見通しはプラス21.5となっている。

●収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス35.7となっている。

●新車に比べ低価格である中古車が良く売れているが、消費増税後に新車販売が低迷し中古車が減少しているの、顧客ニーズに合う中古車が確保しにくくなっているとの声が聞かれた。

■不動産業■

不動産業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 9.1	0.0	72.7	27.3	▲ 27.3	27.3	54.5	18.2	9.1
売上	▲ 18.2	27.3	36.4	36.4	▲ 9.1	27.3	45.5	27.3	0.0
収益	▲ 18.2	27.3	36.4	36.4	▲ 9.1	27.3	45.5	27.3	0.0

●不動産業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比18.2ポイント下降しマイナス27.3となった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス9.1となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス9.1、来期見通しはゼロとなっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス9.1、来期見通しはゼロとなっている。

●空家の増加や住宅需要の低迷から販売価格、仕入価格共に低下しているとの声が多数聞かれた。行政のU・Iターン促進の動きが、古民家販売の追い風となるとの声も聞かれた。

■サービス業■

サービス業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	10.3	26.3	44.7	28.9	▲ 2.6	26.3	55.3	18.4	7.9
売上	5.1	26.3	36.8	36.8	▲ 10.5	28.9	52.6	18.4	10.5
収益	0.0	26.3	39.5	34.2	▲ 7.9	23.7	55.3	21.1	2.6

●サービス業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比12.9ポイント下落しマイナス2.6となった。来期(2015年10月～12月)見通しはプラス7.9となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス10.5、来期見通しはプラス10.5となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス7.9、来期見通しはプラス2.6となっている。

●大型店の進出などにより人材争奪競争が激化し、地元企業が人材確保に苦しんでいる。

サービス業のうち： 医療福祉業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	0.0	25.0	41.7	33.3	▲ 8.3	25.0	50.0	25.0	0.0
売上	0.0	25.0	41.7	33.3	▲ 8.3	16.7	58.3	25.0	▲ 8.3
収益	▲ 25.0	25.0	41.7	33.3	▲ 8.3	8.3	58.3	33.3	▲ 25.0

●医療福祉業の業況判断DIは、今期(2015年7月～9月)は前期比8.3ポイント下降しマイナス8.3となった。来期(2015年10月～12月)見通しはゼロとなっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス8.3、来期見通しもマイナス8.3となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス8.3、来期見通しはマイナス25.0となっている。

●介護報酬のマイナス改定後、全国的に介護施設の倒産が増加している。また、当地域内で新施設が開業し競争が激化している。実待機者の調査を実施した結果、調査前に把握していた待機者数の1/5しかいないことが判明し、危機感を募らせているとの声が聞かれた。

■ 昨年同期比較売上高・収益 ■

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	26.3	38.2	35.5	▲ 9.2
建設業	29.5	40.9	29.5	0.0
卸売業	23.3	46.7	30.0	▲ 6.7
小売業	34.7	36.7	28.6	6.1
不動産業	27.3	45.5	27.3	0.0
サービス業	36.8	31.6	31.6	5.2
総計	29.8	38.7	31.5	▲ 1.7

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	22.4	36.8	40.8	▲ 18.4
建設業	29.5	45.5	25.0	4.5
卸売業	26.7	43.3	30.0	▲ 3.3
小売業	28.6	55.1	16.3	12.3
不動産業	27.3	45.5	27.3	0.0
サービス業	39.5	31.6	28.9	10.6
総計	28.2	42.3	29.4	▲ 1.2

業種別	増加	変わらず	減少	DI
卸売業	20.0	76.7	3.3	16.7
小売業	20.4	63.3	16.3	4.1
総計	20.3	68.4	11.4	8.9

- ① 昨年同期(2014年7月～9月)比較売上高DIは、全業種ではマイナス1.7となった。
 ② 昨年同期比較収益DIは、製造業、卸売業でマイナスとなり、全業種でマイナス1.2となった。
 ③ 昨年同期比較販売価格DIは、卸売業プラス16.7、小売業プラス4.1となった。

■ 販売価格 ■

販売価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	▲ 13.3	3.9	78.9	17.1	▲ 13.2	10.5	85.5	3.9	6.6
建設業	▲ 2.2	2.3	93.2	4.5	▲ 2.2	4.5	84.1	11.4	▲ 6.9
卸売業	16.7	16.7	80.0	3.3	13.4	16.7	83.3	0.0	16.7
小売業	19.6	12.2	71.4	16.3	▲ 4.1	16.3	75.5	8.2	8.1
不動産業	▲ 27.3	0.0	45.5	54.5	▲ 54.5	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1
サービス業	▲ 7.7	5.3	86.8	7.9	▲ 2.6	7.9	86.8	5.3	2.6
総計	▲ 0.7	6.9	79.8	13.3	▲ 6.4	10.9	82.7	6.5	4.4

● 販売価格DIは、今期は、卸売業を除く業種でマイナスとなり、全業種ではマイナス6.4となった。来期見通しは、全業種ではプラス4.4となっている。

■ 仕入価格 ■

仕入価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	9.4	22.4	71.1	6.6	15.8	17.1	77.6	3.9	13.2
建設業	35.6	15.9	81.8	2.3	13.6	9.1	86.4	4.5	4.6
卸売業	50.0	20.0	76.7	3.3	16.7	23.3	76.7	0.0	23.3
小売業	23.6	20.4	65.3	14.3	6.1	22.4	65.3	12.2	10.2
不動産業	▲ 18.2	0.0	72.7	27.3	▲ 27.3	0.0	81.8	18.2	▲ 18.2
サービス業	12.8	7.9	78.9	13.2	▲ 5.3	0.0	86.8	10.5	▲ 10.5
総計	21.1	17.3	73.8	8.9	8.4	14.1	78.2	6.9	7.2

● 仕入価格DIは、不動産業とサービス業を除く業種でプラスとなり、全業種ではプラス8.4となった。来期見通しは全業種ではプラス7.2となっている。サービス業では、エネルギー価格が低下している。

● 仕入価格の上昇は続いているものの、上昇スピードが緩やかになっている。また、消費税増税時に値上げをすれば便乗値上げとなるので、値上げする時期は今しかないとの声が聞かれた。

■在庫■

在庫DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI	過剰傾向	適正	不足傾向
製造業	4.0	9.3	82.7	8.0	1.3	5.3	89.3	5.3	0.0
建設業	2.2	6.8	93.2	0.0	6.8	2.3	97.7	0.0	2.3
卸売業	▲ 3.4	3.3	90.0	6.7	▲ 3.4	0.0	93.3	6.7	▲ 6.7
小売業	11.7	18.4	73.5	8.2	10.2	10.2	87.8	2.0	8.2
不動産業	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0
総計	4.3	10.0	83.7	6.2	3.8	5.3	90.9	3.8	1.5

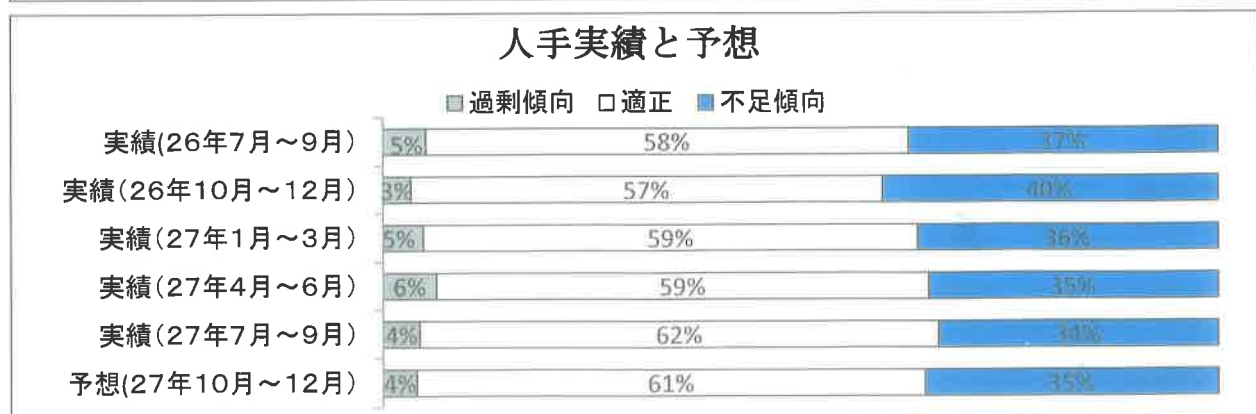
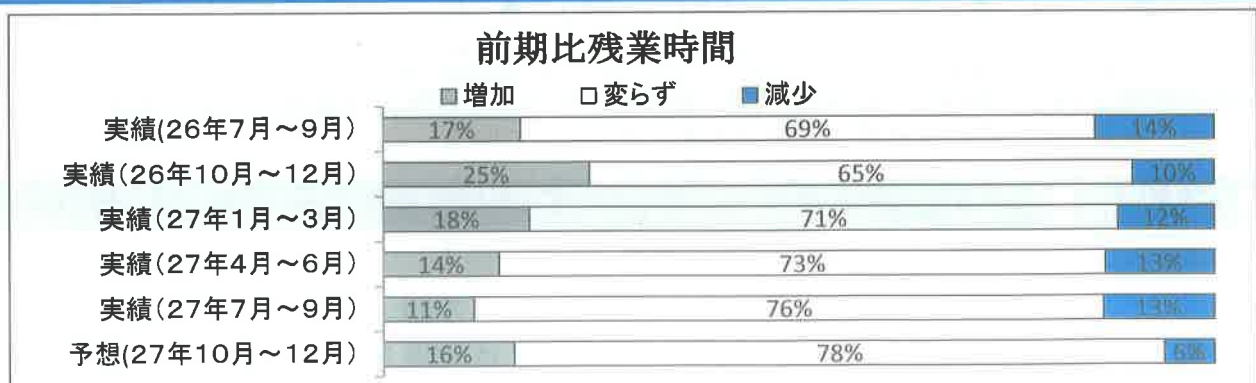
●在庫DIは、今期は、全業種で8割超が適正と回答し、全業種でプラス3.8となった。来期見通しは、全業種で9割超が適正と回答し、全業種でプラス1.5となっている。

■受注残■

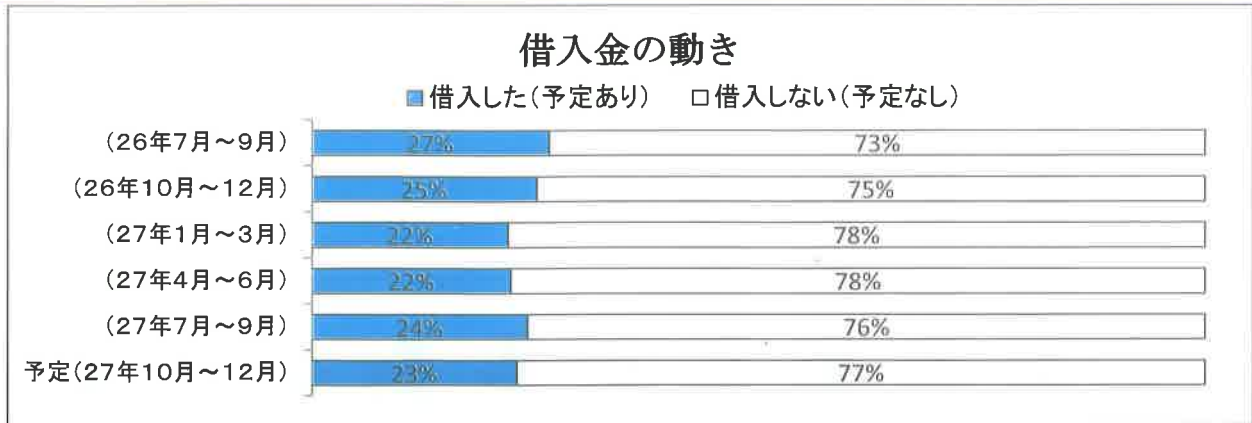
受注残DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	増加	変わらず	減少	DI	増加	変わらず	減少
製造業	▲ 9.4	23.7	47.4	28.9	▲ 5.2	35.5	51.3	13.2	22.3
建設業	6.7	29.5	52.3	18.2	11.3	27.3	61.4	11.4	15.9
総計	▲ 3.3	25.8	49.2	25.0	0.8	32.5	55.0	12.5	20.0

- 製造業の受注残DIは、今期は前期比4.2ポイント上昇しマイナス5.2となり、来期見通しはプラス22.3となっている。
- 建設業の受注残DIは、今期は前期比4.6ポイント上昇しプラス11.3となり、来期見通しはプラス15.9となっている。

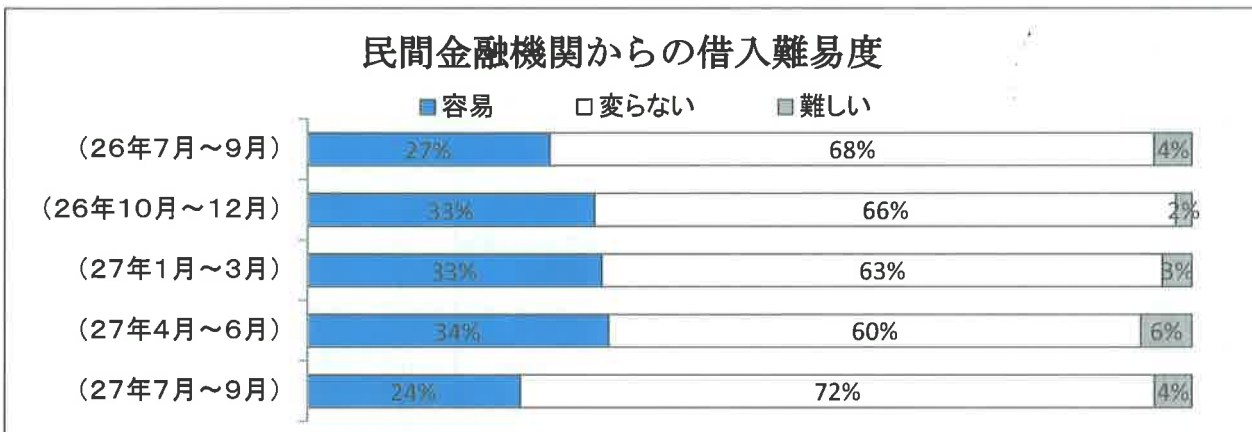
■雇用面の動き■



借入金の動き・難易度



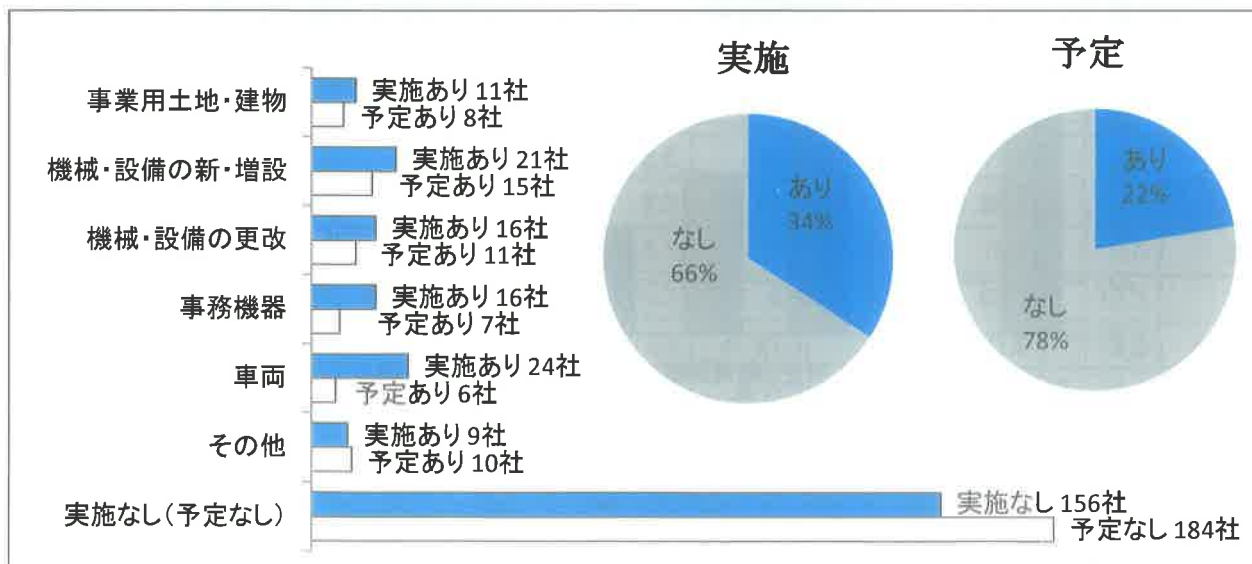
●借入を実施(27年7月～9月)した企業の割合は、去年同期比3ポイント減少した。借入を予定(27年10月～12月)している企業の割合は、去年同期実績に比べ2ポイント減少となっている。



●借入の難易度(27年7月～9月)は、『容易』と回答した企業の割合が去年同期比3ポイント減少し、『難しい』と回答した企業の割合は、昨年と同じとなっている。

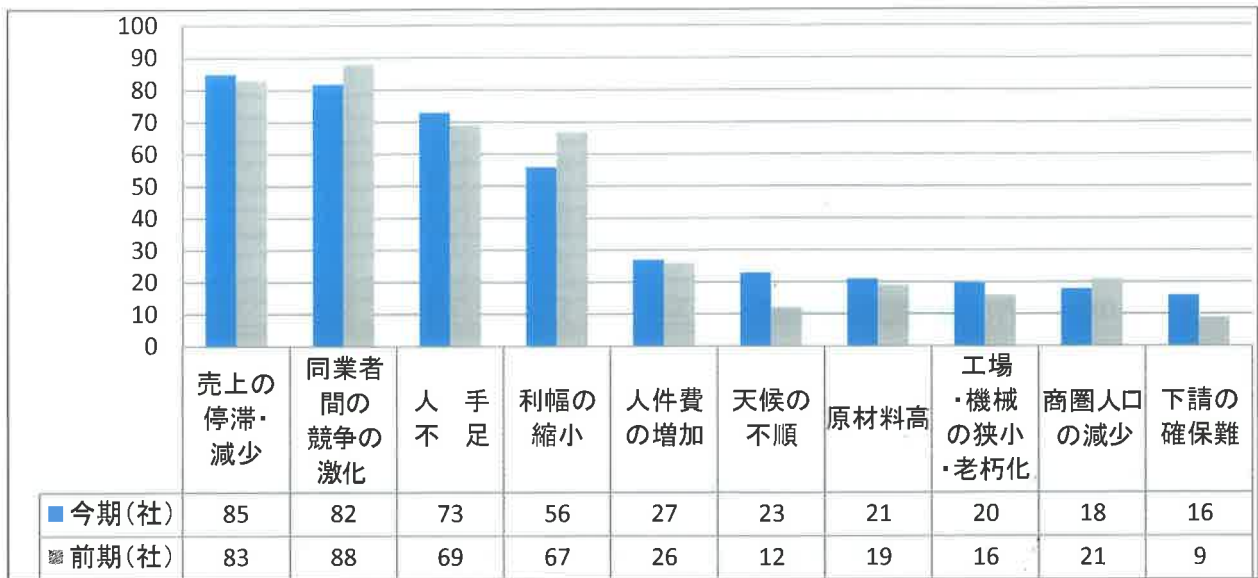
設備投資の実施(27年7月～9月)と予定(27年10月～12月)

●全業種(除く不動産業:有効回答計237社)(複数回答)



■ 経営上の問題点 ■

● 全業種(複数回答)

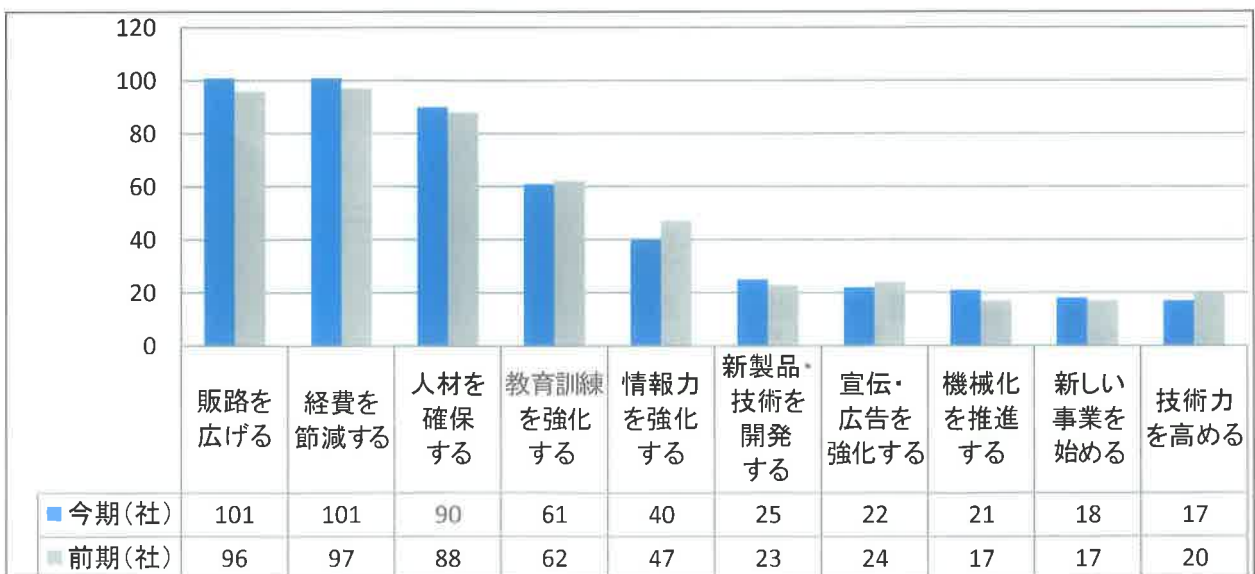


● 業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	売上の停滞・減少	17.0	人手不足	22.0	同業者間の競争の激化	16.4	同業者間の競争の激化	15.1	利幅の縮小	20.8	人手不足	19.6
2位	同業者間の競争の激化	11.7	同業者間の競争の激化	17.6	利幅の縮小	15.1	売上の停滞・減少	11.9	売上の停滞・減少	16.7	売上の停滞・減少	18.5
3位	原材料高	11.2	下請の確保難	8.8	売上の停滞・減少	12.3	利幅の縮小	11.1	大手企業との競争の激化	12.5	同業者間の競争の激化	12.0
4位	工場・機械の狭小・老朽化	10.6	売上の停滞・減少	8.8	人手不足	8.2	商業圏人口の減少	11.1	商品物件の高騰	8.3	人件費の増加	8.7
5位	人手不足	9.0	天候の不順	8.8	取引先の減少	5.5	人手不足	7.9	商品物件の不足	8.3	利幅の縮小	6.5

■ 当面の重点経営施策 ■

● 全業種(複数回答)



●業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	販路を広げる	21.5	人材を確保する	16.5	販路を広げる	31.6	経費を節減する	19.4	販路を広げる	25.0	人材を確保する	22.2
2位	経費を節減する	14.9	経費を節減する	16.5	情報力を強化する	11.8	品揃えを改善する	13.7	宣伝・広告を強化する	25.0	教育訓練を強化する	16.2
3位	人材を確保する	13.3	技術力を高める	15.6	経費を節減する	11.8	教育訓練を強化する	13.7	経費を節減する	20.8	経費を節減する	16.2
4位	新製品・技術を開発する	12.8	販路を広げる	13.8	人材を確保する	10.5	人材を確保する	12.9	情報力を強化する	12.5	販路を広げる	14.1
5位	情報力を強化する	7.7	情報力を強化する	11.9	教育訓練を強化する	9.2	店舗・設備を改装する	10.5	その他	4.2	宣伝・広告を強化する	7.1

■調査員の調査コメントから■

○今期の業況判断D I は、製造業が3期連続マイナスとなり、6業種中4業種がマイナスとなった。原油安による燃料費等の削減効果と円安による受注増加効果のプラス面と人材確保難による人件費増加や外注費増加のマイナス面で、全体の業況感は足踏み状態が継続している。

○来期見通しは、プレミアム付商品券や旅行券の利用、インバウンド(注1)の増加、さらには公共工事の増加により業況改善を期待する声が聞かれた。一方で、中国経済の成長鈍化による景気への悪影響を懸念する声も複数聞かれた。

○地域内にドラッグストア、リユース(再利用)、コンビニ等の出店や業種の垣根を越えた戦略で競争が激化している。当地域からも県南に出店を予定していたり、ネット販売、さらには美作材の輸出を推進する動きがあり、営業エリアを広げる企業が増加している。

○異業種交流でオープンイノベーション(注2)が推進されており、商品デザインの専門業者を利用してパッケージとネーミングを刷新した商品が大手百貨店の目にとまり、新規取引に結びついたとの声が聞かれた。

○人材不足が全産業に広がる中でワークライフバランス(注3)に着目し、土日祝日休みや残業なしの条件で求人した企業からは応募があったとの声が複数あった。また、自社のホームページで企業の採用情報や社員の顔写真を掲載したことで応募があったとの声が聞かれた。

○人材確保難の中、社員教育に注力している企業も多くある。社員の能力向上や考え方等の徹底を図るため、積極的に外部教育機関や取引先等の研修に参加させているとの声が多数聞かれた。また、女性の活用も建築設計者、リフォーム提案者、セミナー講師、取引先との交渉役など多岐にわたっている。

○消費税増税を控え、不動産の購入や住宅投資の増加が見込まれるが、前回消費税増税時ほどの影響はないのではないかとの声が複数聞かれた。

(注1) インバウンド(inbound)とは、外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行を指す。海外旅行はアウトバウンド(outbound)という。

(注2) オープンイノベーションとは、自社技術だけでなく他社や大学などが持つ技術やアイデアを組み合わせ、革新的なビジネスモデルや革新的な研究成果、製品開発につなげるイノベーションの方法論をいう。

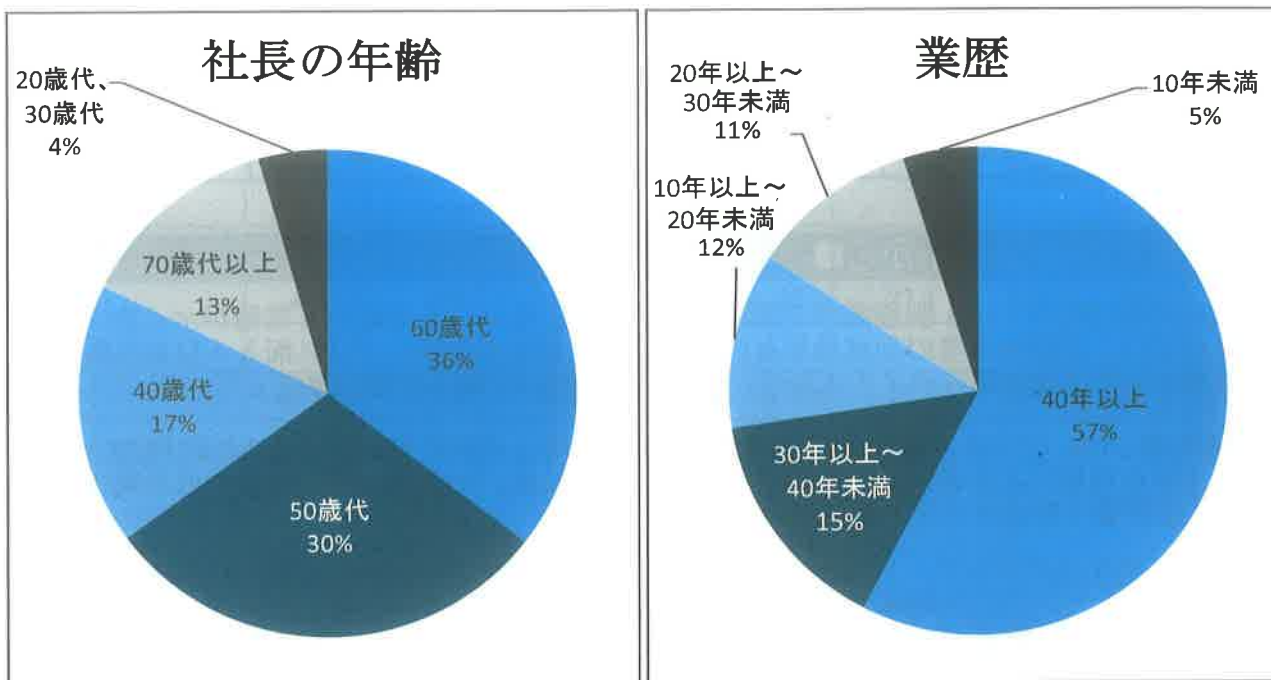
(注3) ワークライフバランスとは、「仕事と生活の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」ことを指す。

以上

☆☆☆ 特別調査 ☆☆☆

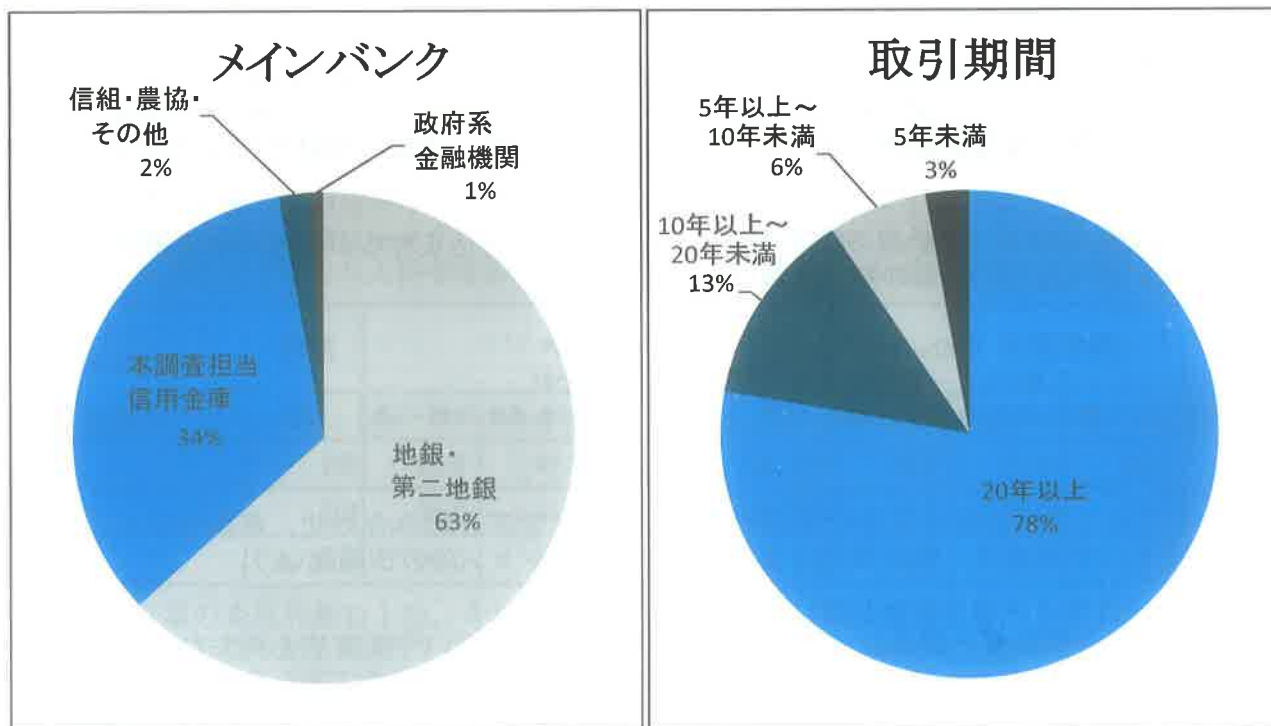
特別調査-「中小企業が地域金融機関に望むこと」

問1. 貴社の社長（代表者）の年齢について、お答えください。また、貴社の業歴について、お答えください。



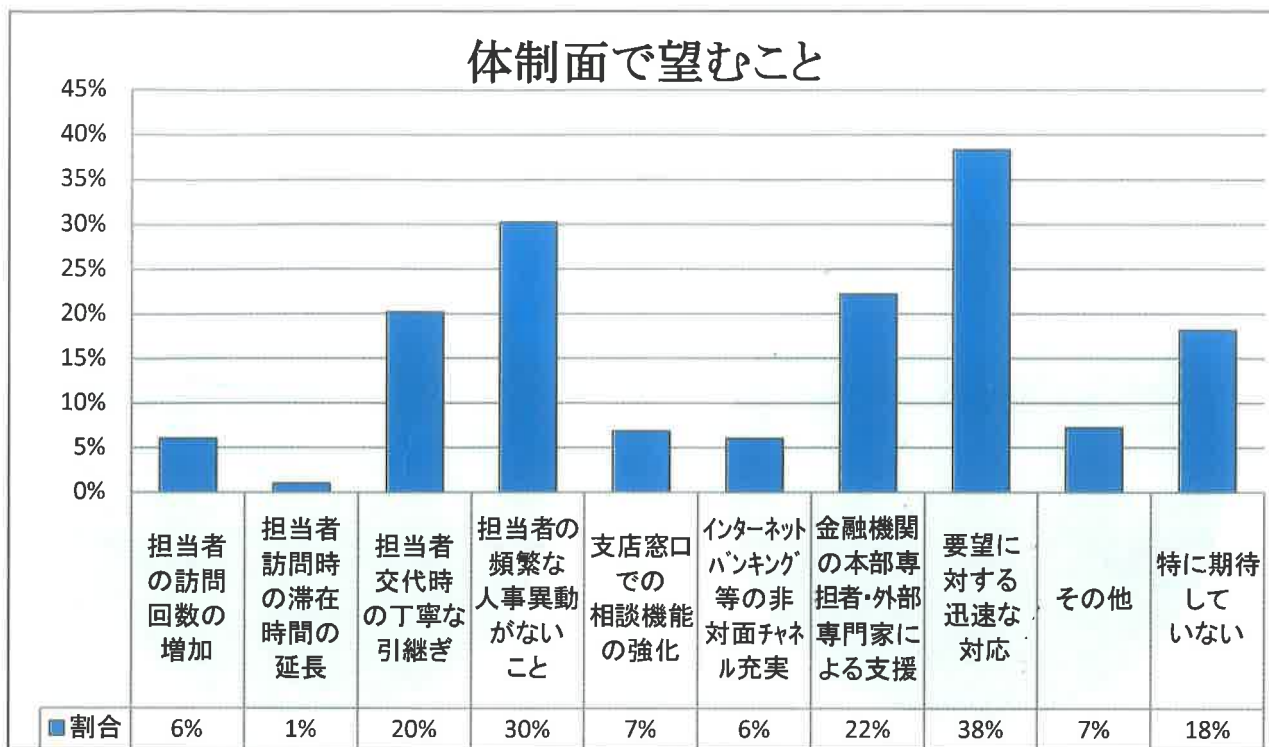
- 社長の年齢は、「60歳代」が36%と最も多く、次いで「50歳代」が30%と続いた。「60歳代」と「50歳代」の合計が66%となっている。
- 業歴40年以上の企業が57%となっている。

問2. 貴社におけるメインバンクについて、お答えください。また、メインバンクとの取引期間について、お答えください。



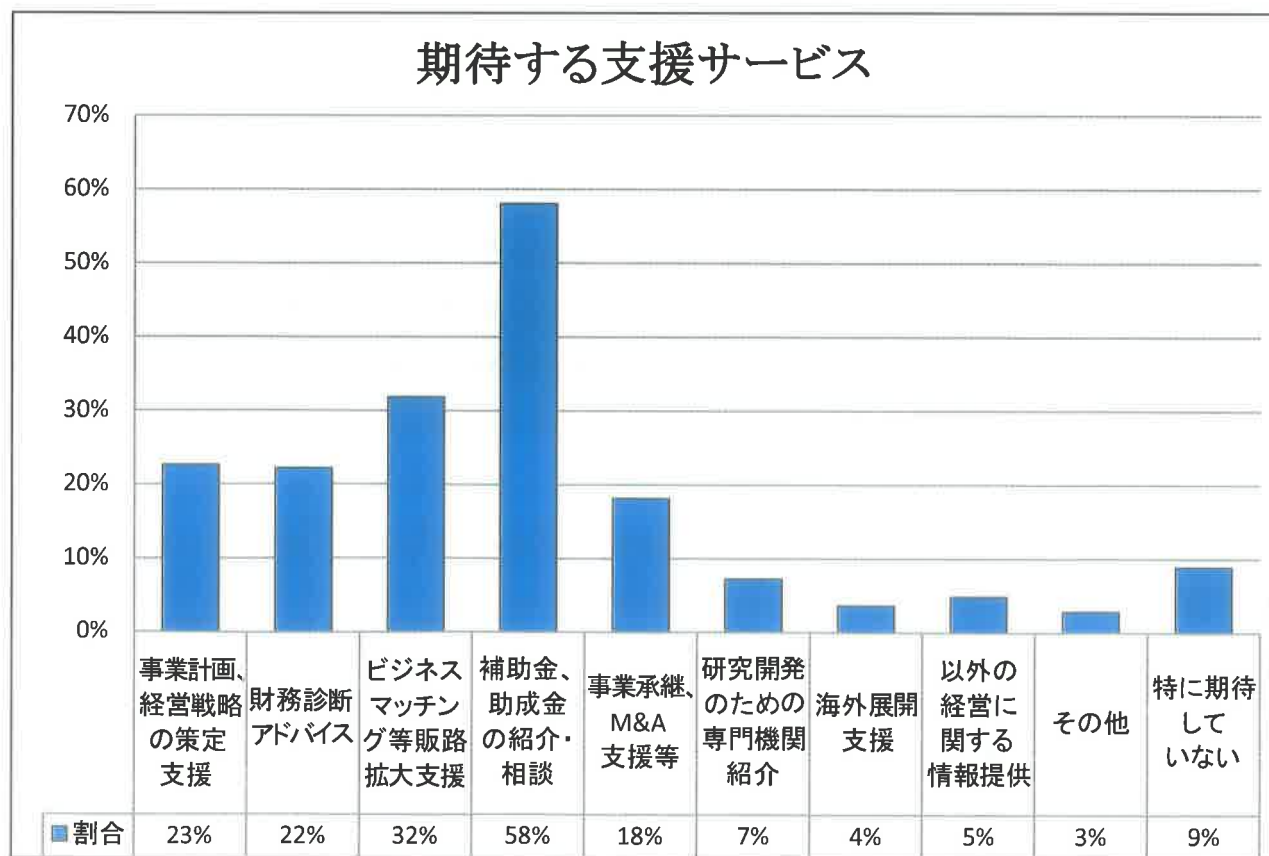
- メインバンクは、「地銀・第二地銀」が63%と最も多く、次いで「信用金庫」が34%と続いた。
- メインバンクとの取引期間は、「20年以上」が78%と最も多く、次いで「10年以上～20年未満」が13%と続いた。

問3. 地域金融機関の体制面で望むことについて、お答えください。（複数回答）



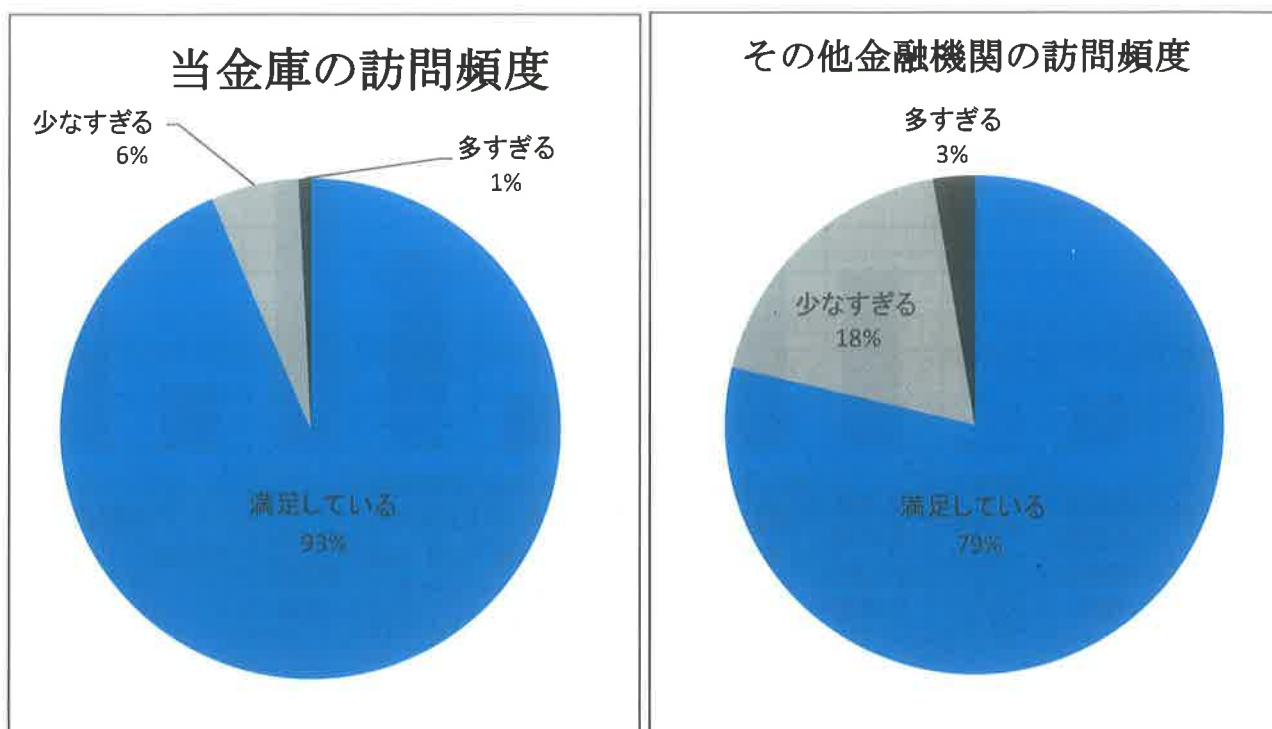
● 「要望に対する迅速な対応」が38%と最も多く、次いで「担当者の頻繁な人事異動がないこと」が30%と続いた。（※割合=回答数/248社）

問4. 地域金融機関にどのような金融取引以外の支援サービスを期待しますか。（複数回答）



● 「補助金・助成金の紹介・相談」が58%と最も多く、次いで「ビジネスマッチング等販路拡大支援」が32%と続いた。（※割合=回答数/248社）

問5. 本調査を担当している信用金庫による貴社への訪問頻度に関してお答えください。また、その他の主な取引金融機関による訪問頻度に関してお答えください。



- 当金庫の訪問頻度は、「満足している」が93%となりました。
- その他の主な取引金融機関による訪問頻度は、「満足している」が79%となりました。
- 重要なのは、訪問頻度ではなく、訪問時の会話内容であるとの声もいただきました。

(参考1) 当金庫の補助金支援について

●地域創造室および営業店が窓口となり、当金庫では補助金に関する情報提供や申請支援を積極的に行っています。お気軽にご相談下さい。
また、補助金情報は次のホームページ（HP）等からも入手することができます。

- 中小企業庁 (<http://www.chusho.meti.go.jp/hojyokin/index.htm>)
- ミラサポ (<https://www.mirasapo.jp/subsidy/index.html>)
- 公益財団法人 岡山県産業振興財団 (http://www.optic.or.jp/objective_detail/index/8.html)
- 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 (<http://www.shakyo.or.jp/sponsor/index.htm>)
- 中小企業ビジネス支援サイト (<http://j-net21.smrj.go.jp/index.html>)
- つやま産業支援センター (<http://www.tsuyama-biz.jp/support/>)
- 真庭市産業サポートセンター (<http://www.maniwa-sangyo-sc.com/yakudachi.html>)
- 美作市 (<http://www.city.mimasaka.lg.jp/www/index.jsp>)

(参考2) 作州地域の企業数および従業者数の増減

- 2009年の企業数9,467社が、2012年には、683社減少して8,784社となっている。2009年の従業者数96,417人が、2012年には、4,207人減少して92,210人となっている。
- 「卸売業、小売業」では、339社、2,431人の大幅な減少となっている。また、「建設業」でも、149社、982人の大幅な減少となっている。
- ほとんどの業種で従業者数が減少しているが、「医療、福祉」で674人、「サービス業（他に分類されないもの）」で848人、「教育、学習支援業」で111人の従業者が増加している。

※下表の産業大分類比較表は、「RESAS」を用いて作成しました。（担当：藤本、岡部）

○作州地域全体								
産業大分類名	2009年		2012年		2009年と2012年の企業数および従業者数増減			
	企業数	従業者数	企業数	従業者数	企業数	割合(%)	従業者数	割合(%)
製造業	819	20,794	830	20,655	11	1.3%	▲ 139	▲ 0.7%
卸売業, 小売業	2,606	21,458	2,267	19,027	▲ 339	▲ 13.0%	▲ 2,431	▲ 11.3%
医療, 福祉	501	12,778	521	13,452	20	4.0%	674	5.3%
建設業	1,491	9,277	1,342	8,295	▲ 149	▲ 10.0%	▲ 982	▲ 10.6%
宿泊業, 飲食サービス業	1,110	7,990	1,039	7,616	▲ 71	▲ 6.4%	▲ 374	▲ 4.7%
サービス業(他に分類されないもの)	656	4,741	644	5,589	▲ 12	▲ 1.8%	848	17.9%
生活関連サービス業, 娯楽業	942	4,469	889	4,225	▲ 53	▲ 5.6%	▲ 244	▲ 5.5%
運輸業, 郵便業	151	4,222	152	3,668	1	0.7%	▲ 554	▲ 13.1%
複合サービス事業	54	1,740	55	1,584	1	1.9%	▲ 156	▲ 9.0%
農業, 林業	103	1,706	94	1,552	▲ 9	▲ 8.7%	▲ 154	▲ 9.0%
学術研究, 専門・技術サービス業	298	1,652	280	1,562	▲ 18	▲ 6.0%	▲ 90	▲ 5.4%
金融業, 保険業	62	1,731	51	1,471	▲ 11	▲ 17.7%	▲ 260	▲ 15.0%
教育, 学習支援業	194	1,307	188	1,418	▲ 6	▲ 3.1%	111	8.5%
不動産業, 物品賃貸業	428	1,408	389	1,208	▲ 39	▲ 9.1%	▲ 200	▲ 14.2%
情報通信業	32	594	27	450	▲ 5	▲ 15.6%	▲ 144	▲ 24.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	3	299	1	286	▲ 2	▲ 66.7%	▲ 13	▲ 4.3%
鉱業, 採石業, 砂利採取業	10	190	10	116	0	0.0%	▲ 74	▲ 38.9%
漁業	7	61	5	36	▲ 2	▲ 28.6%	▲ 25	▲ 41.0%
総計	9,467	96,417	8,784	92,210	▲ 683	▲ 7.2%	▲ 4,207	▲ 4.4%

■ 調査要領 ■

■ 調査対象 ■

1. 調査対象

当金庫営業エリア内の中小企業

2. 調査時期

2015年8月24日～9月7日

3. 調査方法

当金庫職員による訪問聞き取り調査

4. 分析方法

DIを中心に分析

5. 季節変動について

業況判断DIは、毎年1～3月期に低下し、4～6月期に上昇するという季節的な変動（季節変動）がありますが、当金庫の分析においては季節変動の調整（季節調整）は行っておりません。

※ 本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。

また、掲載資料は正確性・安全性を保証するものではありません。

地区別	企業数	比率	従業員規模別	企業数	比率
津山鏡野地域	154	62.1%	1～4人	46	18.5%
真庭地域	50	20.2%	5～9人	60	24.2%
美作勝央地域	44	17.7%	10～19人	54	21.8%
総計	248	100.0%	20～29人	34	13.7%
業種別	企業数	比率	30～39人	11	4.4%
製造業	76	30.6%	40～49人	15	6.0%
建設業	44	17.7%	50～99人	12	4.8%
卸売業	30	12.1%	100～199人	11	4.4%
小売業	49	19.8%	200～300人	4	1.6%
不動産業	11	4.4%	301人以上	1	0.4%
サービス業	38	15.3%	総計	248	100.0%
総計	248	100.0%			

作州地域の活性化応援信用金庫



作州地域のパートナー・よろず相談信用金庫

津山信用金庫



岡山県津山市山下30-15
0868-22-4121
営業支援部
(担当：杉山、岡部)